

社会資本総合整備計画（活力創出基盤整備） 中間評価書（平成25年度末）

計画の名称	16 幹線道路における舗装改良による安心・安全な交通、良好な道路周辺環境の確保			
計画の期間	平成23年度 ~ 平成27年度	交付対象	一宮市	
計画の目標				

一宮市内における幹線道路は、実延長で449.2kmの市道1,2級幹線を位置づけている。近年、自動車の重量化や交通量の増加により、特に、幹線道路における舗装の劣化が著しく、安心・安全な交通や道路周辺環境が確保されていないのが現状である。更に、市内における幹線道路を効率・効果的に舗装改良するに当たり、舗装改良路線の優先度を把握することも、喫緊の課題となってきた。こうした中、当市は、旧一宮市・旧尾西市・旧木曾川町の合併により、交通需要が更に増加してきている。このため、緊急に舗装改良を進めるべき2路線を選定し、先行して舗装改良を行うとともに、舗装改良路線の優先度評価調査を行い、その結果に基づいた路線を追加選定することにより、効率・効果的な幹線道路の舗装改良を行い、安心・安全な交通、良好な道路周辺の環境を確保していくことを目標とする。

計画の成果目標（定量的指標）

- ① 優先的に舗装改良が必要な道路の改良率を向上させる。

定量的指標の定義及び算定式

- ① 優先的に舗装改良が必要な道路の改良率を算出する。

$$\text{修繕率} = \frac{\text{舗装改良済延長}}{\text{優先的に舗装改良が必要な道路延長}}$$

定量的指標の現況値及び目標値			備考
当初現況値	中間目標値	最終目標値	
(H23当初)	(H25末)	(H27末)	
0 %	40 %	100 %	

全体事業費	合計 (A+B+C)	534 百万円	A	500 百万円	B	0 百万円	C	34 百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	6.4%
-------	------------	---------	---	---------	---	-------	---	--------	------------------------	------

中間評価

○中間評価の実施体制、実施時期	
中間評価の実施体制	中間評価の実施時期
一宮市建設部道路課	平成26年度 公表の方法 一宮市ホームページにて公表

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業																	
A 道路事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	道路種別	省略工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考
											H23	H24	H25	H26	H27		
16-A1-1	道路	一般	一宮市	直接	-	市町村道	修繕	(1) 0 1 1 2 号線	舗装修繕 L=1,280m	一宮市						210	
16-A1-2	道路	一般	一宮市	直接	-	市町村道	修繕	(1) 0 1 1 7 号線	舗装修繕 L=2,970m	一宮市						290	
											合計	500					
B 関連社会資本整備事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業主体	省略工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考	
										H23	H24	H25	H26	H27			
											合計	0					
番号	一体的に実施することにより期待される効果												備考				
C 効果促進事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業主体	省略工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考	
										H23	H24	H25	H26	H27			
16-C1-1	道路	一般	一宮市	直接	-	計画策定	(1) 0 1 0 8 号線 外 1 6 0 路線	幹線舗装改良路線の優先度評価調査業務委託 (路面性状調査)	一宮市						34		
											合計	34					
番号	一体的に実施することにより期待される効果												備考				
16-C1-1	舗装改良が必要な路線を選定し、効率・効果的な幹線道路の舗装改良を行い、安心・安全な交通、良好な道路周辺の環境を確保する																

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		舗装改良の進捗により、安心・安全な交通、良好な道路周辺の環境が確保された。			
II 定量的指標の達成状況	指標①（優先的に舗装改良が必要な道路の改良率）	中間目標値	40%	目標値と実績値に差が出た要因	騒音・振動の早期解消を図るため、重点的に整備を行ったもの。
		中間実績値	60%		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況（必要に応じて記述）					

3. 特記事項（今後の方針等）

引き続き年次計画に基づき幹線道路の舗装改良の促進を図る。

(様式第3)

(参考図面) 活力創出基盤整備

